

学 位 論 文 審 査 要 旨 公開審査日 2014 年 5 月 28 日 (水)

報告番号： 乙 第 2071 号	氏名： 菊池 宏幸	
論文審査 担当者	主査 教授 羽生 春夫 印	副査 教授 相澤 仁志 印
		副査 教授 三木 保 印

審査論文の題目： Gender differences in association between psychological distress and detailed living arrangements among Japanese older adults, aged 65-74 years (前期高齢者における精神健康度と世帯構成の関連およびその性差)

著 者： Hiroyuki Kikuchi, Tomoko Takamiya, Yuko Odagiri, Yumiko Ohya, Tomoki Nakaya, Teruichi Shimomitsu, Shigeru Inoue

掲載誌： Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology 2013 October 4 [Epub ahead of print]

論文要旨： 高齢者の独居は精神神経疾患発症のリスク要因となるが、さらに誰と同居しているかなどの家族構成によって精神健康度が異なる可能性がある。そこで、地域在住高齢者の世帯構成と精神健康度との関係を男女別に明らかにした。国内3自治体における住民基本台帳から65～74歳の高齢者を無作為に抽出し、郵送質問紙調査を実施した。1807名を分析対象とした。精神健康度の評価尺度には、Kesslerの心理的ストレス質問紙6項目版(K6)を用い、5点以上を精神健康度不良と判定した。対象者のうち、男性では21.7%、女性は23.4%が精神健康不良と判定され、男女とも「一人暮らし」において精神健康度不良者の割合が高かった。また、男性では「高齢者1人とその他の家族が同居」世帯にも精神健康不良者の割合が多かった(AOR;2.85)。高齢者において、精神健康度と世帯構成は有意に関連し、男女とも「1人暮らし」の世帯で精神健康度負両者の割合が高かった。さらに、精神健康度と世帯構成との関連には性差が認められ、女性では同居者がいるかどうかと精神健康度と関係し、男性では同居者に配偶者が含まれているかどうかと精神健康度と関係していた。

- 審査過程：**
1. 精神健康度(K6)と精神疾患(不安障害やうつ)との関連について適切な説明がなされた。
 2. 家族構成の具体的な背景、地域差との関連について適切な説明がなされた。
 3. 身体疾患の有無、身体機能障害、経済力との関連について適切な説明がなされた。
 4. 仕事以外の余暇活動(デイサービスを含む)との関連について適切な説明がなされた。
 5. 前期高齢者の世帯構成や性別による精神健康度には相違があることから、今後行政からの対策や支援に関する説明がなされた。
 6. 今後の課題として、縦断的な調査や、後期高齢者への検討の必要性が述べられた。

価値判定：

高齢者では、精神健康度と世帯構成が関連していることが明らかとなり、男女ともに「一人暮らし」において精神健康度不良者が多く、さらに男性では配偶者以外の家族との同居が精神健康度不良と関連していた。今後の高齢者の精神疾患対策では、男女別に世帯構成との関連を把握する必要性が示された点で、学位論文としての価値を認める。